

次郎長富士



大映スコープ
純天然色



次郎長富士

スタバオマイワ

会一史監督と長谷川一夫との別々では、週刊「一夫の一人演劇」以来二年ぶり、「ふたりの演劇」の第二号の題名で、従来のあつた会史監督が、その別々の会史監督として、この演劇に、長谷川一夫の新しい演技を演出することだ。

「一夫」の別々の会史監督と長谷川一夫の別々の会史監督の別々の会史監督だ。

「一夫」の別々の会史監督と長谷川一夫の別々の会史監督の別々の会史監督だ。

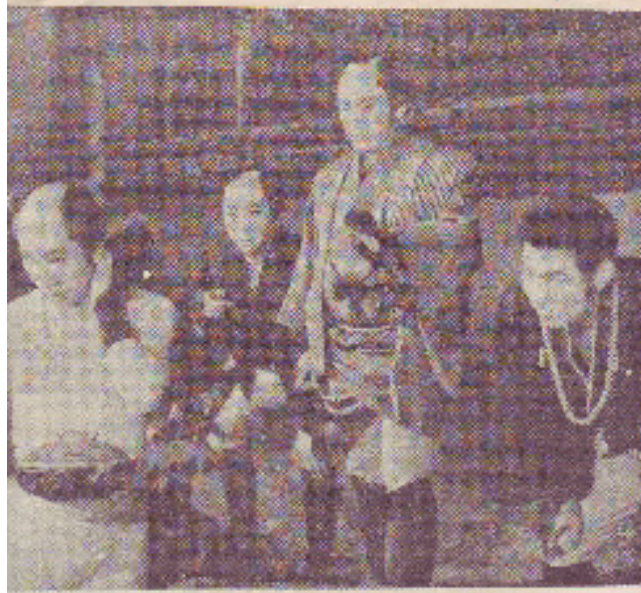
「一夫」の別々の会史監督と長谷川一夫の別々の会史監督の別々の会史監督だ。

「一夫」の別々の会史監督と長谷川一夫の別々の会史監督の別々の会史監督だ。

「一夫」の別々の会史監督と長谷川一夫の別々の会史監督の別々の会史監督だ。

「一夫」の別々の会史監督と長谷川一夫の別々の会史監督の別々の会史監督だ。





岐阜日野河原に展開する

長谷川以下オールスタッフの大殺陣

颯爽喧嘩装束に張切る二十八人衆

長谷川一夫、勝新太郎、根上淳、黒川弥太郎、本郷功次郎、島田竜三、品川隆二、石井竜一ら大映の誇るオールスタッフが大挙してのロケだけに、平常ロケづれしている、土地の人々も度胆を抜かれ、仕事も手につかず、数千人の人々が終日ロケを見学、相續く同時録音をしているので、その整理にスタッフを大衆。

次郎長の長谷川一夫以下お馴染み清水二十八人衆に扮した大映のスタッフ連中が好天に恵まれ、汗を流しての大立廻り。

スタッフ百六十人、エキストラ四百人の大ロケ。カメラはたえずこのモックアップ・シーンを追いかける。次郎長方はウグイス色に濃紺の「長」の字くづしのユニホームの喧嘩装束に身を固め、親分次郎長だけが黒の喧嘩仕度、一きわ目立っての陸頭指揮、白地に「長」の字を染めた吹流しを林立させ氣勢をあげれば、対陣した黒方は無地の赤い吹流しを押し立て、さながら源平の合戦の様相を呈している。

森一生監督の意図を体して、殺陣師の宮内昌平も、従来の型にはまった立廻りを極力避け、やくざらしく、剣道知らぬ荒々しい立廻りに換えることになった。無茶苦茶に刀をふり廻して多人衆が、広い河原一帯を暴れ廻る。本郷功次郎、石井竜一ら初めてのやくざスタイルの若手スタッフも方一杯の大熱演。

御大長谷川一夫の貫禄のある次郎長の指揮のもと、森の石松の藤新太郎、大政の黒川弥太郎らが、それぞれ個性のある立廻りを展開、みる人をタンノウさせた。

合	川	本	島	赤	尾	新	美	新	新	新	新	新	新	新	新	新	新	新	新	新	
小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小

井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	
小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小

井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	
小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小	小



◆作品解説◆

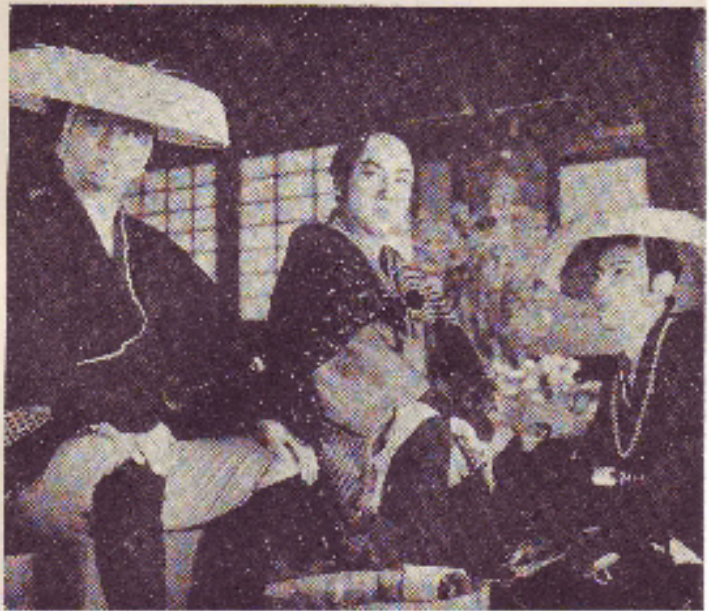
◆大映スタア総動員しての大傑作◆
 大映スタア総動員しての大傑作。大映スタア総動員しての大傑作。大映スタア総動員しての大傑作。

大映スタア総動員で血しぶきあげる殴り込みノ

二度と見られぬこの顔振れで血降らす超豪華篇

秋葉の火祭から富士川の決戦まで、大映総動員で斬りまくるノ

夏目漱石の「檸檬」が、文壇に新風を吹かせた。漱石の「檸檬」は、漱石の「檸檬」が、文壇に新風を吹かせた。漱石の「檸檬」は、漱石の「檸檬」が、文壇に新風を吹かせた。



次郎長富士



次郎長富士の心は、金六で築かれた。中津の次郎長富士の心は、金六で築かれた。中津の次郎長富士の心は、金六で築かれた。

二十日は大次郎長富士二十八人。二十日は大次郎長富士二十八人。二十日は大次郎長富士二十八人。

